



文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業（機関選抜型）」
ウーマン・テニュア・トラック教員制

岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



Newsletter

特集

平成24年度 ウーマン・テニュア・トラック 教員研究発表会

12月21日、創立五十周年記念館にて「平成24年度ウーマン・テニュア・トラック（WTT）教員研究発表会」を開催しました。研究発表会は、本学における優秀な女性教員の採用を促進するために実施しているWTT教員制に関して、学内外での認知度を高めることを目的として、WTT教員が幅広い対象に対して分かりやすく研究内容の紹介を行うものです。

当日は、第Ⅱ期WTT教員（平成23年4月採用）のうち海外出張者を除く2名、第Ⅲ期WTT教員（平成24年4月採用）4名、合計6名が研究テーマや研究プロジェクトの進捗状況等を発表しました。

研究発表会には教員や学生を中心に90名余りが参加し、質問やアドバイ스가積極的に出されました。

もくじ

特集 ウーマン・テニュア・トラック教員研究発表会	
WTT教員交流会／研究スキルアップ講座	1
理学部における男女共同参画推進事業について	
交流サロンの実施／中国四国男女共同参画シンポジウム	
男女共同参画に関する管理職セミナー	
ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）懇話会	2
おかやまサイエンス・トーク実施報告	
女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム	3
女性サポート相談室だより	
男女共同参画の現状⑥男女共同参画の学習／新室員紹介	
今後の予定／編集後記	4



【発表者一覧（発表順）】

飯尾友愛（大学院保健学研究科）

「マウス喘息モデルによる精油の抗アレルギー作用機序の解明」

宮崎祐子（大学院環境生命科学研究科）

「環境の変化が森の樹木の開花・結実様式を変える」

山本ゆき（大学院環境生命科学研究科）

「哺乳動物における卵管の生理機能：3次元細胞培養法による解析」

門田有希（大学院環境生命科学研究科）

「大規模ゲノム解析を利用した、先史ポリネシア人による南米サツマイモのオセアニア地方への伝播解明」

本田恭子（大学院環境生命科学研究科）

「市民コンモンズとしての地域資源管理の構築を目指して」

日浅未来（大学院医歯薬学総合研究科）

「プリン作動性化学伝達分子メカニズム解明：血小板におけるVNUT局在と機能」

平成24年度
第2回

WTT教員交流会

実施報告



12月21日、本部棟第二会議室にて平成24年度第2回WTT教員交流会を開催しました。

交流会には、第Ⅰ期～第Ⅲ期WTT教員9名を始めとして、WTT教員のメンター教員、男女共同参画室員および教職員有志等、合計20名が参加しました。

交流会では、11月末まで男女共同参画室員でもあったハラスメント防止対策室の室長である根岸友恵氏（大学院医歯薬学総合研究科 准教授）に、「研究室における人間関係について」と題して、研究生生活を通して経験してきた研究室での人間関係についての話題を提供頂きました。後半では、最近のハラスメントの事例に触れながら、ハラスメントを起こさないための人間関係上の注意事項について、特に若手教員の役割に焦点をあてて説明いただきました。



1グループ4人、5つのグループで行ったグループ懇談では、参加者がそれぞれ経験した研究室における人間関係の問題等について話が弾みました。グループ懇談の内容は他のグループにも代表者による発表という形で共有されました。

平成24年度
第2回

研究スキルアップ講座

実施報告



10月30日、平成24年度第2回研究スキルアップ講座を東京農工大学大学院連合農学研究科長の船田良氏をお招きして開催しました。

「若手研究者の活力が大学のレベルを決める—東京農工大学の戦略—」というタイトルのもと、テニュアトラック制度による若手人材育成に関する話題を中心とした講演をしていただきました。東京農工大学は、平成18年に文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業に採択されて以来、テニュアトラックを全学的に導入しています。

本学でもウーマン・テニュア・トラック教員制や異分野融合先端研究コア等によりテニュアトラック制度を導入していることもあり、参加者からは講師に対して積極的に質問がありました。

理学部における男女共同参画推進事業について

理学部長・理学部男女共同参画推進委員会委員長 高橋 純夫



理学部では男女共同参画推進委員会を設置し、男女共同参画事業の推進にあたっています。推進事業の一つとして、昨年の11月28日に、理学部の教職員対象に講演会を開催いたしました。理学部は、平成24年4月より正規の女性教員がゼロというきわめて深刻な状況にあります。そのために女性教員の採用を促進することは当然ですが、構成員が男女共同参画に対する認識を深めるところから始めるべきであると考え、講演会を開催したものであります。当日は、57名の参加者のもとに、本学の男女共同参画室の中谷文美先生（大学院社会文化科学研究科教授）により、「なぜ、いま男女共同参画が必要なのか？～仕事と組織の未来に向けて～」と題して講演をいただきました。ご講演では、男女共同参画とは何かについて、国際的動向や国内の取り組み、特に法律の制定ならびに国内施策の推移を詳細に説明いただきまし

た。ダイバーシティ促進の観点からも、女性や外国人など属性が異なる多様な人材を確保することが組織の強みとなることを強調されました。ご講演内容は、理学部における今後の事業推進にむけて大いに参考にさせていただきました。男女共同参画推進は、女性の登用を進めればそれで済みではなく、むしろ構成員が性別によらず、個人として互いに認め合うこと、多様性を尊重することが基本であろうかと思います。

理学部では、女子学生は、学部学生の4分の1を占め、大学院への進学率は高く、博士前期課程では在籍者の約30%となっています。大学教員や研究者志望の女子学生が増えることを願い、そのためにも女性が学びやすく、また研究を継続したくなる環境を理学部に整備していくことが必要であると考えています。

第2回 交流サロン

実施報告

あなたらしく普通でいること、それでOK

－ 研究者を目指す若者への応援として －

1月11日に大阪市立大学大学院理学研究科教授の志賀向子氏をお招きして交流サロンを開催しました。

今回は、主に研究職を目指す学生および大学院生を対象として開催し、理学系の女子大学院生を中心に、教職員、一般の参加者を含めて30名程度が参加しました。

本学の卒業生でもある志賀氏は、大学における男女共同参画の現状や男女の間での結婚や職業に対する態度や考え方の違い等について、ご自身の経験を交えながら講演されました。

講演後は、いつものように質疑応答および少人数でのグループ・ディスカッションが行われ、「女性が仕事を持つことに関しての論じにくさ」、「プロフェッショナルのライフスタイル」、「男女の違いを踏まえた人材育成の必要性」といった点について意見を出し合うことが出来ました。



参加してきました！

ダイバーシティ・サポート・オフィス (DSO)

平成24年度 第2回懇話会

第3回

男女共同参画に関する管理職セミナー

実施報告

「第3回男女共同参画に関する管理職セミナー」を、10月24日に本部棟第一会議室で実施しました。講師には、岡山労働局雇用均等室長である金井 陽子氏をお迎えしました。「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の重要性について」と題したセミナーでは、「なぜ今、ワーク・ライフ・バランスが求められているのか」、「ワーク・ライフ・バランスに関わる政府の取組状況」、「管理職として知っておきたいこと」についてご講演いただきました。当日は、役員や研究科長を始めとして教育系、事務系の管理職約50名が参加しました。

第4回

中国四国男女共同参画シンポジウム

実施報告

第4回中国四国男女共同参画シンポジウム「ともに協働環境の構築へ」が、香川大学主催により11月30日にかがわ国際会議場で開催されました。小館 香椎子氏（日本女子大学名誉教授）の基調講演の他、実践交流、パネルディスカッションが行われました。第3回シンポジウムを主催した本学も共催し、沖 陽子男女共同参画室長が「ウーマン・テニュア・トラックで確実に育てる」として、本学における男女共同参画推進事業について発表しました。

なおシンポジウムに先立ち、中国・四国地区での大学間連携に関する検討会が開催され、「中国・四国地区男女共同参画推進連携会議」の設置要項（案）が承認され、今後とも地区内における連携を推進していくことについて合意しました。

男女共同参画室室長 沖 陽子
（大学院環境生命科学研究科 教授）

※DSOとは？
男女共同参画の取り組みを進めている研究教育19機関が、ダイバーシティ・サポート・オフィス(DSO)を組織し、ワークライフバランスを推進し、ワークライフバランスを蓄積・発信・共有を進めています。事務局は産総研にあります。

※DSOメンバー（参加順）：産業技術総合研究所、森林総合研究所、物質・材料研究機構、農業環境技術研究所、千葉大学、筑波大学、神戸大学、農業・食品産業技術総合研究機構、土庫研究所、国立環境研究所、国際森林水産業研究センター、農業生物資源研究所、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智大学、弘前大学、岡山大学。

おかやまサイエンス・トーク実施報告 平成24年度 第6回～第9回

第6回 おかやまサイエンス・トーク in みつ朝日学園 朝日塾中等教育学校

日 時：平成 24 年 9 月 25 日（火）
13 時 30 分～15 時
参加者：高等部 1 年生および 2 年生 69 名



「新規抗マラリア薬の開発研究」

片本 茜 氏（大学院医歯薬学総合研究科・博士前期課程 1 年）

「森の木々の不思議を探る」

宮崎 祐子 氏（大学院環境生命科学研究科 特任助教）

第8回 おかやまサイエンス・トーク in 森教育学園 岡山学芸館高等学校・清秀中学校

日 時：平成 24 年 10 月 18 日（木）
13 時 30 分～15 時
参加者：高校 1～3 年生および
中学生約 40 名



「細胞間コミュニケーションによる機能制御」

田中 鈴香 氏（大学院自然科学研究科・博士前期課程 2 年）

「生物の行動を支配するホルモン、その進化」

御興 真穂 氏（大学院自然科学研究科 特任助教）

第7回 おかやまサイエンス・トーク in 岡山県立勝山高等学校

日 時：平成 24 年 10 月 6 日（土）
11 時～12 時 30 分
参加者：1 年生および 2 年生約 30 名



「コンピュータ・シミュレーションから見るマグマ」

則竹 史哉 氏（大学院環境生命科学研究科・博士後期課程 1 年）

「植物のストレス解消法」

三谷 奈見季 氏（資源植物科学研究所 特任助教）

第9回 おかやまサイエンス・トーク in 岡山県立岡山一宮高等学校

日 時：平成 24 年 10 月 19 日（金）
13 時 30 分～15 時
参加者：2 年生生理系および
理数科女子約 70 名



「法医学からみた社会問題」

山崎 雪恵 氏（大学院医歯薬学総合研究科・博士後期課程 1 年）

「命が生まれるためのメカニズム」

山本 ゆき 氏（大学院環境生命科学研究科 特任助教）

平成24年度の実施状況

平成24年度はこれまでで最多の9校で実施しました。参加者377名からいただいたアンケートからは次のような結果が出ています。平成25年度もアンケート結果を生かして実施する予定です。

- 〈参加者〉参加者は1、2年生が中心で、男女比は半々でした。
- 〈内容の印象〉過半数が「勉強になる」、3割が「面白い」と評価していました。「勉強になる」と「面白い」両方を選んだ参加者も15%いました。
- 〈研究紹介のレベル〉「適度」と「難しい」が半々でした。
- 〈理系進路への参考〉参加者の中には文系学部への進学を希望している人や進路が未定の人も多くいましたが、67%が「理系進路選択の参考になった」と回答しました。
- 〈おかやまサイエンス・トークへの参加〉ほぼ全員（85%）が「また参加したい」と答えてくれました。

研究紹介者の感想

研究紹介者を対象に実施したアンケート（18名中16名（88.9%）より回答あり）

では、全員が「おかやまサイエンス・トークへの参加は有意義であった」、「再び参加したい」と答えています。ただし、「研究紹介の難易度の適切性について自信を持って発表できた」と考える発表者は約半数にとどまり、高校生に対して分かりやすく説明することに対して難しいと感じている研究紹介者が多いことが分かりました。

なお、発表練習を目的として事前に実施した準備会についても、「他の人の発表を見て、自分のスライドへのフィードバックになった」、「当たり前と思っていたことが、他者には分かりにくかったことを認識できた」という感想が寄せられました。

研究紹介者から

森 俊彰

大学院自然科学研究科
博士後期課程2年

第5回おかやまサイエンス・トーク（平成24年8月23日実施）にて「ニュートリノとスーパーカミオカンデについて」を研究紹介

今回サイエンストークに参加することになったきっかけは「中高生に研究紹介しませんか？」という一通のメールでした。

私は宇宙物理学研究室に所属し、岐阜県飛騨市神岡町にあるスーパーカミオカンデ実験に参加し研究活動を行っています。

スーパーカミオカンデは2002年に小柴さんがノーベル賞を受賞したことで有名なニュートリノという素粒子などを研究する実験施設です。

普段は研究に没頭する毎日を送り、まさか自分が参加するとは思っていませんでした。しかし、中高生たちが自分の研究にどのような関心を持つのか、

また自身が高校生の頃にこのような機会があればその後の進路に影響があったかもしれないと考えようになり、今回のサイエンストークに参加させて頂きました。私が研究紹介をさせて頂いた清心女子高校の生徒さん達は物理の授業を受けておられないので、素粒子やニュートリノという聞きなれない言葉には多少抵抗があったかもしれませんが、後日送られてきた生徒さん達のアンケートにも難しかったという声もありました。しかし、「宇宙に興味を持つことが出来た」という感想も頂きました。そして、今回の研究紹介を通じて自分の興味あることを研究することの楽しさを伝えることが出来たのが一番良かったと思っています。私自身高校生の頃の大学選びは、どの学部・学科に行くかということに重点を置いていました。しかし大学でどんな卒業論文を書きたい、どんな研究室に配属されたいという希望を明確にもつことが出来れば、有意義な大学選びが出来るかもしれません。そのお手伝いが少しでも出来たのでしたら非常に光栄です。

参加してきました！

女性研究者研究活動 支援事業合同シンポジウム

男女共同参画室副室長 富岡 憲治
（大学院自然科学研究科 教授）

検証し、支援システムの定着化に伴って明らかとなってきた諸課題を共有し、今後の女性研究者支援の在り方について模索することを目的として、文部科学省科学技術人材育成費補助金による女性研究者研究支援事業を実施してきた大学・機関団体が全国から集まりました。まず、各機関のポスター展示による取り組みの紹介に始まり、続いて午前中は規模や傾向によって6つの分

科会に分かれて意見交換を行いました。岡山大学は大規模大学のグループで北大、筑波大、慶応大、日本大などと現在の取り組み状況における有効な点、問題点等を議論しました。

午後には各グループでの意見交換のまとめが発表され、続いてパネルディスカッションで今後の支援事業の進め方などについて討議しました。特に中心となった議論の対象は、①女性研究者数、②研究・教育業績、③女性リーダーの育成、④裾野の拡大、⑤継続策等でした。支援プログラムの下でトップの意識が変わり、女性研究者数は増加の傾向にあること、一方で、研究費や公募へのより積極的な応募を促すような意識改革も必要との意見が印象に残っています。また、今後の活動を継続するため財政的支援の必要性も訴えられ、大学間で連携して文科省に働きかける必要性も感じました。

本シンポジウムで他大学や機関の男女共同参画推進に携わっている方々との情報交換を通して、本学の男女共同参画を推進するためのエネルギーを充填するととても良い機会となりました。

女性サポート相談室



10月31日に第2回キャリアカフェを開催しました。ランチを食べながらコミュニケーション論を学ぶという目的のもと、人と人との繋がりを結ぶMissing Linkにスポットを当てた「原子価論」を紹介し、職場や家庭・子育てに活かせるコミュニケーション方法を紹介しました。参加者からは、「職場に帰って原子価論を話したらとても盛り上がりました。」「自分の原子価を知ることができて、今後の参考にしたいです」などの感想が寄せられました。

続いて、第3回キャリアカフェは次世代育成支援室が開催する「第4回 育 Men's Club」の合同企画として、学内教職員とそのお子さんを対象とした「第2回 Family Meeting」を開催しました。

お弁当を食べながらの自己紹介・家族紹介の後、専任講師によるリトミックを体験。クリスマスソングに合わせて、親子で元気に体を動かしました。また、子どもたちが絵本の読み聞かせを楽しんでいる間に、親たちは「仕事と子育て両立 こんな時どうする?!」をテーマにフリートーキングを行い「学童保育の後、子どもをどうやって過ごさせる?」「仕事後に家事と子どもの相手を同時にするのが本当に大変」などの質問に自分の経験談を紹介するなど、「子育て仲間」として知恵を出し合いました。

／ よろしくお願ひします! ／

新室員紹介

谷口 抄子

大学院医歯薬学総合研究科(薬用植物園)・助教



医歯薬学総合研究科(薬学系)の薬用植物園に在籍しております。子育て経験者として、若手の女性教員の方の悩みや成長に何らかのお手伝いができるかと思ひます。沖室長の男女共同参画室からのメッセージにもあります「女性研究者が育つ大地の整備」に少しでもお役にたてれば幸いです。よろしくお願ひいたします。

編集後記

本年度第2号(通算第9号)のニュースレターをお届けいたします。年度末を前に、皆様には本年度の締めくくりと来年度へ向けての準備に多忙な時を過ごしておられるのではないのでしょうか。本号は、男女共同参画室の今年度後半の活動報告を中心に掲載しております。主な活動としましては、9～10月の4回にわたるおかやまサイエンストーク、10月の男女共同参画に関する管理職セミナー、研究スキルアップ講座、キャリアカフェ、12月のWTT教員研究発表会、1月の第2回交流サロンなどで、いずれも多くの方々に参加いただき有意義な会となりました。特に今回初めて実施したWTT教員研究発表会は、先生方の熱心な研究に対して、聴衆からも多くの質問・討論があり、非常に盛況でした。これまでの活動にご協力いただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、男女共同参画室は、男女を問わず働きやすい場の創成を目指して、次年度も活動を継続してまいります。引き続きご理解とご支援をよろしくお願ひいたします。

今 後 の 予 定

4月～(随時)

平成25年度も以下のような事業を実施していく予定です。

- 交流サロン
- キャリアカフェ
- おかやまサイエンス・トーク
- WTT教員研究発表会



データで見る岡山大学 男女共同参画の現状⑥

男女共同参画の学習

前号でもご紹介したように、男女共同参画室では、平成23年度より「プロフェッショナルを目指すあなたへ：男女共同参画社会のライフ・デザイン」を教養教育の主題科目(人間と社会・2単位)として前期に開講しています。本科目は、男女共同参画の視点に立ってキャリアについて考える機会を提供するユニークなものです。本学ではこの他にも女性学やジェンダー研究に関する授業が多数開講されていることをご存じでしょうか。

平成24年度のシラバスによれば、教養教育だけでなく教育学部や文学部でも女性学やジェンダー研究に関する科目が文化人類学、人権・同和教育、教育史、教育社会学、そして家庭科教育に関する科目などとして提供されています。加えて、保健学研究科などでも大学院の授業科目が提供されています。その中には「ジェンダーと生きることー働く未来に向けて」のように1990年以来20年以上にわたって開講されている科目(途中名称変更有)もあります。

少し古いデータですが、平成21年度はのべ約2,000名(教養教育936名、学部1,047名、大学院27名)もが男女共同参画について学んでいました。



平成21年度に女性学やジェンダー研究に関する教養教育科目を受けた学生の男女比は？

※答えは下

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530
岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL: 086-251-7011 FAX: 086-251-7033
Email: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo

